

青島日本商業會議所

青島日本商業會議所

第 一 百 二 號

(中華郵政特准掛號)
大正十四年五月十八日發行
每週月曜日

一、本報の宗旨
二、本報の編輯
三、本報の發行
四、本報の廣告
五、本報の訂閱
六、本報の代價
七、本報の地址
八、本報の電話
九、本報の電報
十、本報の郵便
十一、本報の印刷
十二、本報の發行所
十三、本報の廣告部
十四、本報の訂閱部
十五、本報の代價部
十六、本報の地址部
十七、本報の電話部
十八、本報の電報部
十九、本報の郵便部
二十、本報の印刷部

本號記事

- 膠濟鐵路沿線主要驛貨物集散狀況(其七)
- 支那の造幣局(其二)
- 單頭驛務概況(三月中旬)
- 四月中膠濟鐵路收入
- 銀塊並爲替(五月四日至九日)
- 商況(同)
- 上海製造絹糸株式會社第三十六期營業成績
- 島島物價表(三月末)
- 膠濟鐵路濟南驛發着貨物統計(四月下旬)

資料

膠濟鐵路沿線

主要驛貨物集散狀況

(其七)

狀況

第五章 青州

第一節 概説

青州は青島より一五四哩濟南より九一哩を距て北に偏せるも膠山東省の中央に位し古來交通上の樞要地たり青州は歴史的に著名なる都市なりと共に交通の便を有するを以て當地に集散する物資も相當數に上り濟南周村濰縣等と共に商業上重要な地位を占むるものなり
今當縣より四隣の縣城に至る距離を示せば

樂安(北方)	九〇支里
臨淄(西方)	四五同
博山(西南)	一二〇同
臨朐(東南)	五〇同

猶當地より各地に至る道路には西濟南黃河に東は濰縣膠州煙台に南は汾州に北は樂安利津に通する大道あり南方は山岳重疊せるを以て車行困難なれども東西北の三方は土地概ね平坦にして大小車の往來に適し交通上重要な意義を有す鐵道開通後に於ては主要驛として貨客の集散愈々激増するに到れり

(A)臨朐方面に通ずるもの
臨朐縣は豫定青沂沿道上最も青州に隣接し商業關係甚だ密接な交通機關は

小車なり、縣城所在地の臨朐迄五十支里を距て貨物運賃百斤に就き銅元三十枚なり

臨朐縣下の商業地たる五井迄は七十支里を距て運賃百斤に就き銅元四十五枚なり、治原は同じく臨朐縣下の商業地にしてその商業的價值は臨朐縣城よりも大にして生絲胡桃乾柿全蠟牛皮生絲屑羊毛支那紙等を移出し石炭雜貨を移入しつゝあるが同地は青州より七十支里を距て運賃百斤に就き銅元四十五枚なり

(B)廣饒方面に通ずるもの
道路比較的平坦なるを以て大小車の往來自在にして縣城所在地の樂安迄九十支里あり又廣饒縣下商業地なる道口鎮迄九十支里を距て普通運賃は安平二百枚に付き銀一元四角内外なり

(C)壽光方面に通ずるもの
六十支里にして道路平坦大小車の往來自在なり
主要交通機關に就て見るに青州との取引大部を占むる臨朐等南部方面は概して山地なる故に陸上交通機關としての大役を果すものは小車にしてその貨銀は青州臨朐間積載量二三百万斤にして片道一吊八百文乃至二吊文なり又青州驛東關間は片道運賃百斤に就き京錢百二十文見當なり、青州より北方の樂安壽光に到るには概して平坦なるために大車の使用さるゝ事多くこの他南部方面の山岳重疊せる山間の險路にありては驢馬背に據ること多し

第二節 輸出貨

既述の如く當地は交通の便良好なる上にその背後には豐なる生産地を控へたるを以て當地に集る物資も相當豐富且つ多種なるが重なるものに繭糸繭屑安平唐辛胡桃干柿瓜各種果實羊毛落花生雞卵桐材髮毛葉煙草あり有望の地なるも如何せん邦商のこの地に活動する者に青島系廠を除きて大資本を有する者少きを以て皆熱心に活動しつゝあるにも拘らず殆んど支那人の活躍に委するの止むなき狀態にあり、昨年度當驛積出の貨物は總計一〇四一七屯に達したり今項を追ふて各種物資に及ばんとす

繭糸 當地市場に集る繭糸は臨朐附近より奧地一帶に亘る相當廣汎の地方なるも周村濰縣等の大市場を控へたるを以て是等各地の產繭が全部當地に集るものに非ず例令へば臨朐の產繭も一部は青州へ又一部は昌樂濰縣に出さるゝ如き有様なり昨年度青島絲廠が當地に於て買付けたる數量は約一萬貫に上りたるが是は當地附近に盛なる製糸原料繭を除き市場出廻額の大約三分の一に當るべし餘餘は當地支那商並に上海方面より出張せる華商の買付たるものにして一九二四年當驛發送額は三七〇屯に上りたり大部分は青島及上海方面に到るものなり

繭屑 當地に集る繭屑の範圍は大約前項の繭と同一地方にして當地發送後一度本品市場たる周村に送り同地に於て撰別の上上海又は日本に送らるゝものなるが當地より直接上海及日本方面に送らるゝものもあり

生糸 青州周村を中心とし奧地一帶に亘る廣汎なる地域は有名なる產繭地に於て年産額推算千五百万斤と稱せられその中繭の儘にて市場に出廻るは三分の一に過ぎず殘りの大部分は各產繭地の農家が座繰式の製糸をなし生糸として市場に出廻るなり當地に於て機械製糸を爲すは勸業系廠のみにして他は全部座繰式の土法に據るものなるが當地市場出廻りの生糸は屑糸をも含み年約四十万斤に達すべく此の中三十万斤は上海方面に達するとして周村に發送さるゝものとす

當地東關には生糸の定期市あり此の地方より糸を賣らんとするものは間屋に來集し買手の到るを待ち買成成立するや問

屋は一定の手續料を受くるものなり、糸質を見るに臨朐及新泰より出づるものは細糸多く品質優れ沂水及萊蕪より出づるものは太糸多く品質稍劣れり

安平 安平は廣饒縣北に産する蠶を材料とし秋刈りとりしものを乾燥し石臼にて壓碎し刀にて割き適當の長さ揃へしものを編むものにして編みし上は四方を切り取り始めて完全の安平となすものなり大さは普通通長五尺五寸巾四尺位のものにして包裝用に使用さるゝものは輕きものを居室用には重くして厚きものを又雨露風雪を防ぐための覆蓋用としては編目密にして厚きものを可とす

當地產の約二割は附近各地に消費され約五割は羊角溝に出で民船により芝罘その他各地に仕向けられ残り約三割は青州に出で鐵道にて沿線各地は元より青島大連又は上海方面に仕向けらるゝものなり昨年當驛發送額は總計一、〇五九屯の多きを算したり

唐辛 益都臨朐二縣一帶に産し當地に集りし上汽車にて青島に到り大部分は朝鮮に仕向けらるゝものなり、年約百車を出し得可し

胡桃 益都臨朐の二縣一帶は元より奧地にかけたる方面は山東省内著名の山果產地にして各種の山果は殆んど總て當地より約六支里を距てたる五里堡に集るものにして、五里堡に於ては定期に(四、九の日)市が立ち果實問屋は同地に於て買收の上青州に運送し汽車にて青島、濟南上海各方面に輸送さるゝものとす

胡桃は主として臨朐博山益都の諸縣一帶に產地し前記五里堡に於て取引の上各地に出さるゝものにして産額の約六割五分は膠州に出で更に民船にて福建寧波等の南支方面に仕向けられ一割五分は青島へ一割五分は濟南へ残り五分は當地に於て消費さるべし、輸出品は有殼上等品にして麻袋包となし南支方面に仕向けらる

ものは下等品にして安平包となすものなり、猶昨年度當驛發送額は八七八屯に達したり

◆乾柿 前者と同じく益都臨朐博山縣の一帶に産し同じく五里堡に集り取引上當地に運送し日本及び上海方面に輸出するものなり、在青島邦人の多くは比較的小資本にても可能なる本品の取引をなすもの多かりしが昨年日本内地に於て輸入品の或るものに對し從價十割の奢侈稅發表あるや本品もこの適用を受けるに到り加ふるに日本稅關吏の不當なる評價額は本品の日本着値を著しく高價ならしめ遂には不引合の窮狀に陥りしため昨年末產地の原價は暴落するに到りたり、爲に昨年度當驛發送額は五百四十一屯に過ぎざり

◆果實 青州臨朐一帶より奥地は既述物資以外に瓜梨石榴桃其他一般の果物産額多くその品質の如きも支那内地稀に見る良品なり昨年當驛發送額は一四五屯にして主として青島濟南方面に仕向けらるものなり

◆蔬菜 一般果實の外蔬菜の産額多く有名なる大形の葱は當地附近にも多額に産し昨年の當驛發送額は八五七屯に及びたり

◆羊毛 當地に集る羊毛は臨朐沂水等南方一帶の地方より産するものにして單に羊毛と稱するも山羊毛と綿羊毛の二種あり普通には綿羊毛を羊毛山羊より取りし綿毛は之を羊絨と稱す當地集散額は詳かならざるも當事者の談に據れば羊毛一ヶ年十萬乃至二十萬斤羊絨五萬斤乃至十萬斤なりと言ひ當地に集りしものは大部分羊毛市場たる周村に移送され同地に於て取引の上日本上海其他各方面に輸出せらるものにして近年は當地よりむしろ博山に集り周村に移送さるもの次第に増加の傾向にありとゆふ、猶從來當地に於て邦商の羊毛取扱に従事せるものは全

部失敗に歸したり

◆落花生 北方の壽光南方は臨朐沂水の各方面より當地に集り青島方面に到るものにして大部分は青島の華商出張して買付け邦人にては日本人會長小林氏が昨年度より始て是が取扱に着手せり、品質より見る時臨朐方面のものは外殼少しく悪く多くは博山に到り壽光方面のものは外殼白色なり故に臨朐方面のものは剝實の材料に好く壽光方面のものは殼付として良好なり昨年度當驛發送額は八十六屯なり

◆鶏卵 南北一帶に産し壽光廣饒方面のものは形稍大なるも南部に産するものは形小なり昨年度當驛發送額は一三六屯にして殆んど青島に仕向けられたり

◆桐材 南北一帶に産するも北は主として驛附近にしてその品質は沿線中第一と稱せらる、一時品需と河南物に壓倒せられて輸出大いに衰へしが昨秋は時局の影響を受けて河南物の輸送杜絶せるため義正洋行河本高橋洋行等の使用支那人が買出に従事せり大部分は青島を経て日本内地に仕向けらるものなり

◆材木 臨朐一帶には白楊を産し當地に集りし上青島濟南周村の各方面に仕向けらる昨年度移出額三九四屯なり

◆葉煙草 青州附近一帶に産し南信洋行及び南洋兄弟等買付に従事す昨年度移出額一六六屯に達せり

◆髮網 山東省内に於ける髮網工業は一八九〇年頃芝罘附近の支那婦人が外國宣教師より教示を受けしに始り爾來年を追ふて盛大に赴き戰前芝罘の集散額五百萬元に上りしが中過半は青州府一帶の製品に係れりと稱せらる、然れ共近年髮網相場の下落と共に一昨年頃より遂に不引合の狀体となれり (未完)

支那の造幣

(其二)

四、湖南省

長沙の造幣局は一九二三年度の内乱に

因り甚しく破壊されしも一九二四年二月に徐明家の督軍に任せらる、や直に復舊して作業を開始し二仙銅貨を一日三、〇〇〇、〇〇〇の割合にて製造しつゝ、あり鑄造局の管理者は頗る有利の地位にして廖模は徐の補助者として任命せられたり鑄造局はその品質を著しく粗悪とし以前の標準重量が五十枚十四兩ありしに對し新貨は僅かに十二兩を越ゆるの程度に過ぎず然も外國原料を著しく混するに到れり、かくて鑄造局は省當局に對し一月五、〇〇〇、〇〇〇枚の利益則ち當時の相場に換算して二、〇〇〇弗を提出せるが間もなく鑄造局より生ずる實際利益に關し省議會に問題を生ぜり、則ち省當局に提出の額は從來の三倍たるべしと要求されしも此の争の結果廖は辭職し梅が新に彼の後任として就任せり、梅は失つ市場を救済せんがため銅貨の鑄造を制限し銀貨を鑄造せん事を提議せるも是は實行せらるゝに到らざりき、かくて銅貨の交換率は次第に低下し遂には一弗に對し約三百箇子兒の割合となり直により以上の鑄造を中止すべき世論沸騰するに到れり、一方鑄造局に於ても利益は次第に減少するに到りしを以て是れ又その作業中止を希望したれ共一定量の原料が猶殘存せるため、作業を中止すべしとの提議は當局より承認さるゝに到らざりき

五、江蘇省

南京造幣局は主として銀元鑄造に貢獻し來りその鑄造貨は滬寧津浦兩鐵路沿線の市場需要に對し供給し來れり、該鑄造局發行銀貨の品質は從來試験されざりしが一九二四年二月上海大學のマー氏に依り分析せられし結果に就て見るに四箇の銀貨に含有せられし銀の量は其々八・二二、八八・二七、八八・〇六及八八・〇九%にしてすべて中央政府制定の標準以下にあり、この報告の結果輿論を喚起するに到り上海總商會、銀行公會、及錢莊公會等の保護の下に確定的の試験が設け

られしが是は南京鑄造局の標準たる純銀九九八・六を根拠とし同一方法と同一見本に従ひしものなりとす、その試験の結果果次の如き成績を得たり第一の見本は八八・五第二は八八・九・〇第三は八八・七・五第四は八八・九・五にしてその差異は總て財政總長及び幣制局より許されし範圍内にあり、この數字は總ての疑惑を一掃し然も造幣局は信用の更新を得たるも間もなく銀元の價額が一定点以下に下落し利益が鑄造費を補ふに足らざるや鑄造局は忽ちその作業を中止するの止むなきに到れり、かくて年末に到るや市場の在銀高著しく減少しその價額は鑄造に著しく有利となりしも政治關係及び内乱は鑄造の再開を不可能ならしめため同年間該鑄造局は閑散裡に推移したり、一方各種の團體はその閑散期を利用し銅貨を作るべき事を建議せるも上海總商會は既に市場に過多なるを見て猛烈に抗議し追にその建議は延期せらるるに到れり

六、浙江省

杭州鑄造局は銀元價額下落せるため支那の舊正後二月に入るや直に鑄造を中止し六月には鑄造局は上海及び杭州に在る中國銀行交通銀行と契約を締結し鑄造局は是等銀行より銀の供給を得て銀元を鑄造せんと企てたり、然れ共鑄造に従事せるは僅か一ヶ月にしてその鑄造額も三百万元に過ぎざりしに當時盛に上海、浙江の市場に入り來りし廣東の不良補助貨を驅逐せんと目的より六十五%の銀を含有せる十仙及二十仙の小銀貨を鑄造せんと建議出でたり、かくして暫時の間各種の商業團體の間には是等の貨幣を承認すべきか否かに就き激しき論議あり結局杭州及上海の總商會が該銀貨の流通を認容するに到りし當時は政界の雲行不安となり間もなく内乱の勃發となりしため幾んど鑄造せざる中に早くも中止すべからざるの運命となれり、然るに間もなく銀元の價額再び騰貴し鑄造局は十二月廿五日

に鑄造を再開せしも廿七日には再び江蘇省に内乱の勃發するありて鑄造を中止せしめ年末には銀元の市況頗る有利なりしにも拘らず造幣局は閑散裡に推移せり

七、安徽省

安徽造幣局は他の造幣局に比して多額の利益を挙げ來り當局者は目して重要な財源となせり、その結果昨年中該局發行の銀元は最悪質なりと稱せられ同年中匯豐銀行によりなされたる試験によれば含銀量は僅か七八・九%に過ぎず中央政府制定の標準より一割以下に在り、ために全國銀行公會々議は該局よりかゝる不良貨の發行持續を停止すべき事を政府に提出すべきを決議せり、然れども安徽銀元に對する不滿不平の輿論は極めて大にして上海、天津、漢口、濟南その他各商業團體の反對猛烈なりしたため當局は特別検査官を派遣してその眞想を調査せしめ一方南京の稅務司に對し該局向銀の發送を停止すべき旨の指示を發せり、かくの如き輿論を緩和せんとて七月に同造幣局はその中止を公に聲明せるも八月九月の間猶引續き秘密裡にその鑄造を繼續し銀元以外不良なる十仙をも鑄造し市場に出せり、長江沿岸一帶が内乱にて動搖せる時に在りては同造幣局は盛に銀及び銅元の發行に従事し年末に及び安徽省民は七月以來多少秘密に作業しつゝある同造幣局の眞想を確めんがため造幣調查會を設立したるも造幣局は軍憲の保護下にあるもなるを以て果して同會が何事をなし得るや極めて疑問とする所なり

八、福建省

福州の鑄造局以外馬尾漳州及び沙縣の三ヶ所に十仙及二十仙を鑄造するの設備あり一九二四年は是等の鑄造局が各異りたる軍長の支配下にあり各造幣局發行の貨幣は各軍の勢力範圍にのみ流通せり、是が鑄造も又利益のためになされたるものなるを以て貨幣の品質は自然その標

大正十四年三月末調査

[illegible]

膠濟鐵路濟南驛發着貨物仕出地別表

發送之部

(單位噸) (仕向地別)

大正十四年四月下旬

品名	青島	大港	埠頭	四方	滄口	藍村	膠州	文嶺	昨山	黃旗堡	濰縣	昌樂	青州	周村	明水	南定	王舍人莊	龍山	淄川	大崑崙	博山	計
生雜麥鷄生	698	90	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	698
牛貨粉卵油	16	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	263
麥生棉鐵人	18	645	1,000	2,700	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	250
田米花貨糞	12	195	60	30	291	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	706
油	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	62
石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18
高曹	—	360	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,345
木牛雜大	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	600
羊牛桐骨藥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30
肥羊麻銅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15
料毛油塊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
計	1,533	2,423	3,060	30	291	25	50	17	30	15	138	30	104	165	30	5	30	25	45	15	50	8,111

到着之部

(單位噸)

(仕出地別)

品名	青島	大港	埠頭	滄口	膠州	高密	蔡家莊	昨山	文嶺	濰縣	黃旗堡	姚哥莊	周村	淄川	青州	張店	龍山	王村	大臨池	明水	淄川	大崑崙	博山	計
綿砂雜鐵染	380	520	—	105	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	485
木綿竹臘燐	471	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	520
高草石コ石	315	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	547
高煙機曹コ	15	—	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	345
綿藥麥石空	150	285	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
酒雜陶小葉	—	105	—	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	515
白軌豆生	—	75	—	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36
大洋招驢機	75	15	1,065	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	113
胡椒	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8
椒土	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	75
計	2,667	1,289	1,945	141	23	135	75	45	30	97	105	15	236	5	66	15	75	185	45	300	2,250	1,820	3,162	14,717